タウヒードとは何か

この本は第二世代の若いムスリムの為の本です

福岡マスジド編集

訳者：アブドゥルワーヒド 山根郷 史
サキーナ アマー 美穂

2019

タウヒードとは何か



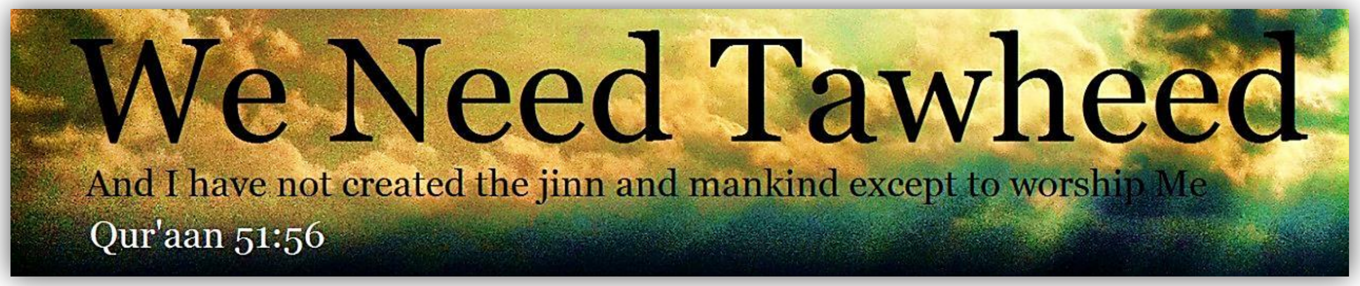
PART 1

パート1

タウヒードとは何か

- タウヒードとは広義においてアッラーの唯一性の認識とその固持のことである。「アッラーは唯一である」ということを言葉でいうのは容易い。しかし、言葉だけでなく、人生の中で、信仰と行為において実践するということはどういうことを意味するのだろうか？

- そのようなタウヒードへの考察は、以下のような結論に落ち着く。



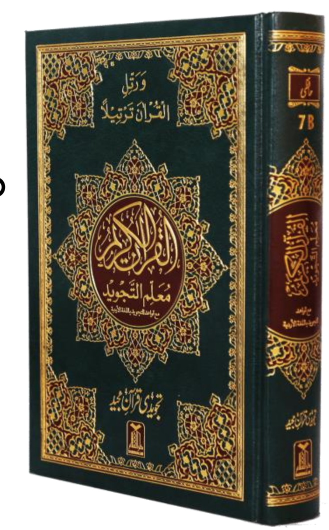
- タウヒードをアラビア語として眺めていくと、クルアーンでご自身がご自身を描写されるとおりの、かの御方固有の属性で、その美名と属性に被造物と似たところはひとつもないという認識に至る。また、彼の本体と属性には仲介者も協力者も配偶者もいないという認識にも至る。

- それを踏まえたシャーリア上の議論において、タウヒードは三分類される。すなわち、①“تَوْحِيدُ الرُّبُوبِيَّةِ”「主性の唯一性」、②“تَوْحِيدُ الأُلُوهِيَّة”「神性の唯一性」、③“تَوْحِيدُ الأَسْمَاءِ وَالصِّفَاتِ”「美名と属性の唯一性」という三分類である。

- このタウヒードという言葉とその由来はクルアーンとスンナの中に見出せる。

- アッラーは次のようにおっしゃっている。

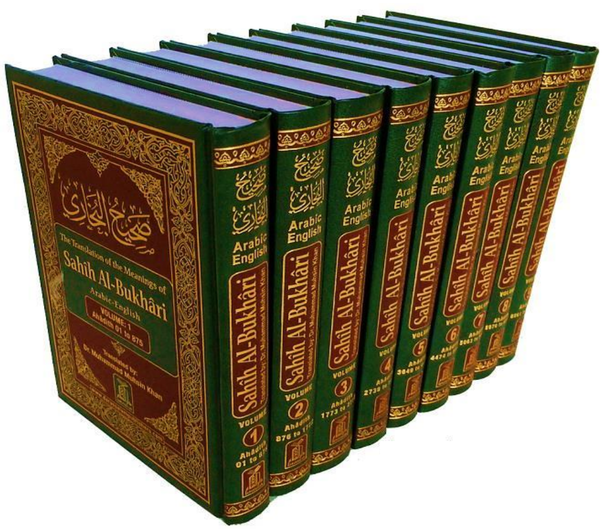
「言え。『かの御方はアッラー、唯一なる御方である。アッラーはまた自足した御方である。かの御方は産みもしないし、産まれもしない。そして、かの御方と比べる者はなにもない。』」（112:1-3）



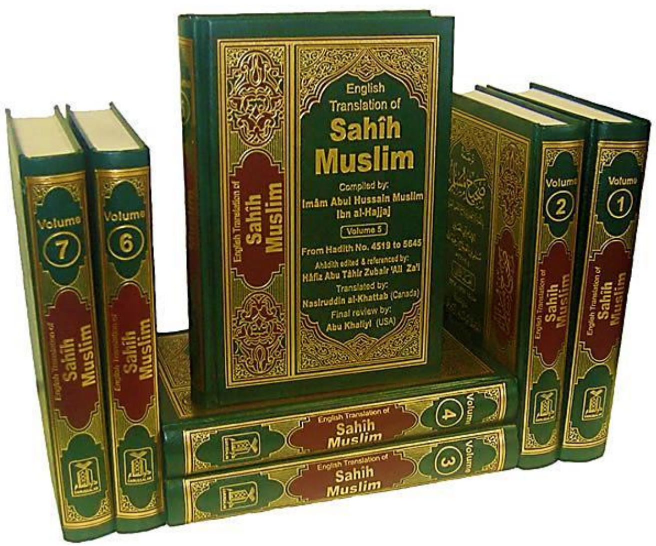
- また、アッラーは次のようにおっしゃっている。

「そして、あなたの神はアッラーである。彼において他に神はないのである。慈悲遍き御方、慈愛深い御方。」

- ブハーリー正伝とムスリム正伝による、イブン・アッバースさま（アッラーが満足なさいますように）の伝える伝承：「預言者（かの御方に平安と祝福あれ）がムアーズ・イブン・ジャバルをイエメンの提督として派遣した時のこと、かの御方はムアーズに次のように言葉をかけた。『お前は啓典の民がいる地域に赴くことになる。最初にアッラーだけを崇拝する信仰（タウヒード）を人々に呼び掛けなさい。（以下省略）』と。」



- また、ムスリム正伝による、イブン・ウマルさま（アッラーの満足がありますように）の伝える伝承：「預言者（かの御方に平安と祝福がありますように）は次のようにおっしゃった。『イスラームは5つの柱の上に建てられる。アッラーの唯一性の信仰（タウヒード）、義務の礼拝の確立、ザカートの納付、ラマダーンの断食斎戒、そして、ハッジである』と。」



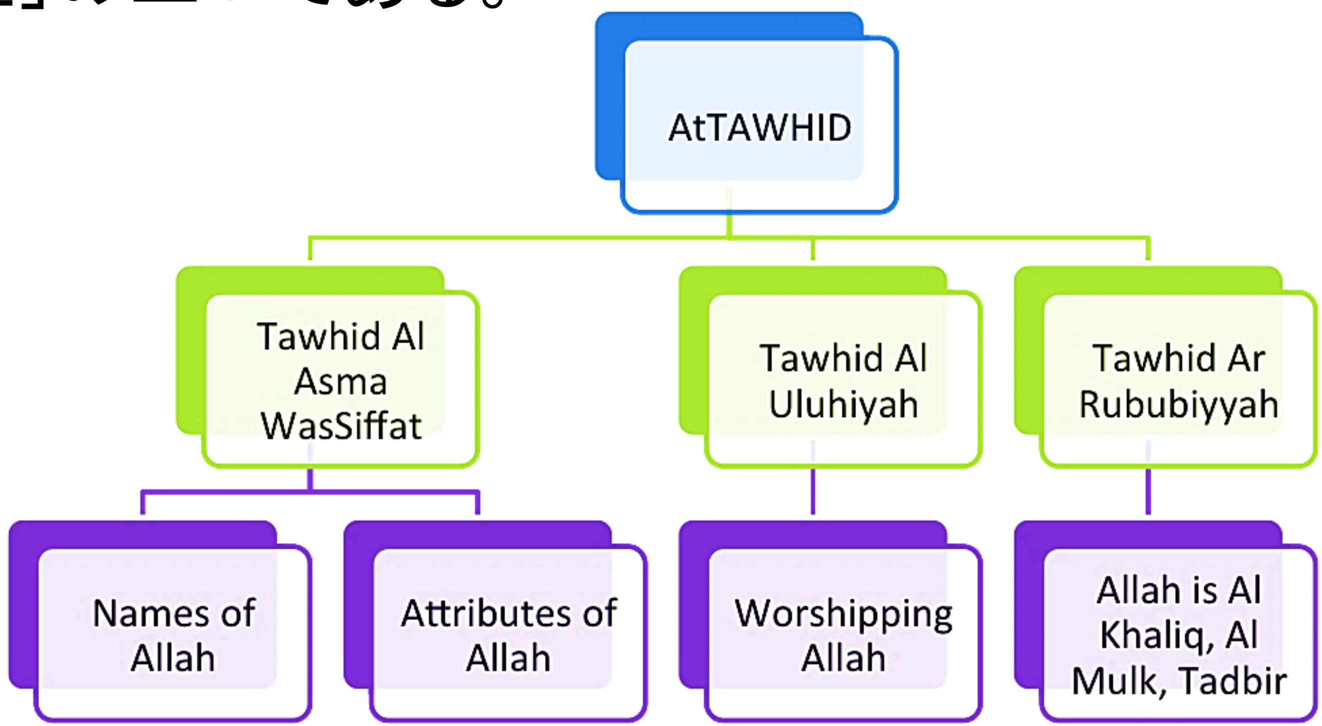
- タウヒードとはこれらの文脈において、何を意味するのであろうか？それは疑いなく「ラーイラーハイッラッラー（神はいない、アッラーは除いては）という言葉の表明である。その言葉は、アッラーが派遣した預言者ムハンマド（かの御方に平安と祝福あれ）が齎したもので、聖典クルアーンと預言者のスンナという明証に基づいた、明快な教えであるところのイスラームの精髄を示している。



(La Ilaha Illa Allah Mohamed Rassoul Allah)

- 我々が最初に了解すべきは、学者たちによるタウヒードの三分類である。

- それは①“تَوْحِيدُ الرُّبُوبِيَّةِ”「主性の唯一性」、②“تَوْحِيدُ الأُلُوهِيَّة”「神性の唯一性」、③“تَوْحِيدُ الأَسْمَاءِ وَالصِّفَاتِ”「美名と属性の唯一性」の三つである。



- “تَوْحِيدُ الرُّبُوبِيَّةِ”「主性の唯一性」とはアッラーを主として認めることを意味する。創造主、王、全てを制御する者、生と死を与える者というアッラー以外になしえない行為の主として認識することを意味する。アッラー以外の者達によって世界が創造されたと考えたり、世界はアッラー以外の者達によって維持管理されていると考えたり、アッラー以外の者によって物事が起きると考えたりするならば、そのような者達は、“تَوْحِيدُ الرُّبُوبِيَّةِ”「主性の唯一性」に反しており、アッラーへの不信仰に陥っている。



- “تَوْحِيدُ الأُلُوهِيَّة”「神性の唯一性」とは、仲介者を立てることなく、他の崇拝対象を置くことなく、全ての崇拝行為を、内面おいても外面においても、言葉も行為も全て、アッラーおひとりに捧げることである。アッラーは次のようにおっしゃっている。

- 「そしてあなたの主はあなたの主だけを崇拝するように命じた」（17:23）

- また、アッラーは次のようにもおっしゃっている。

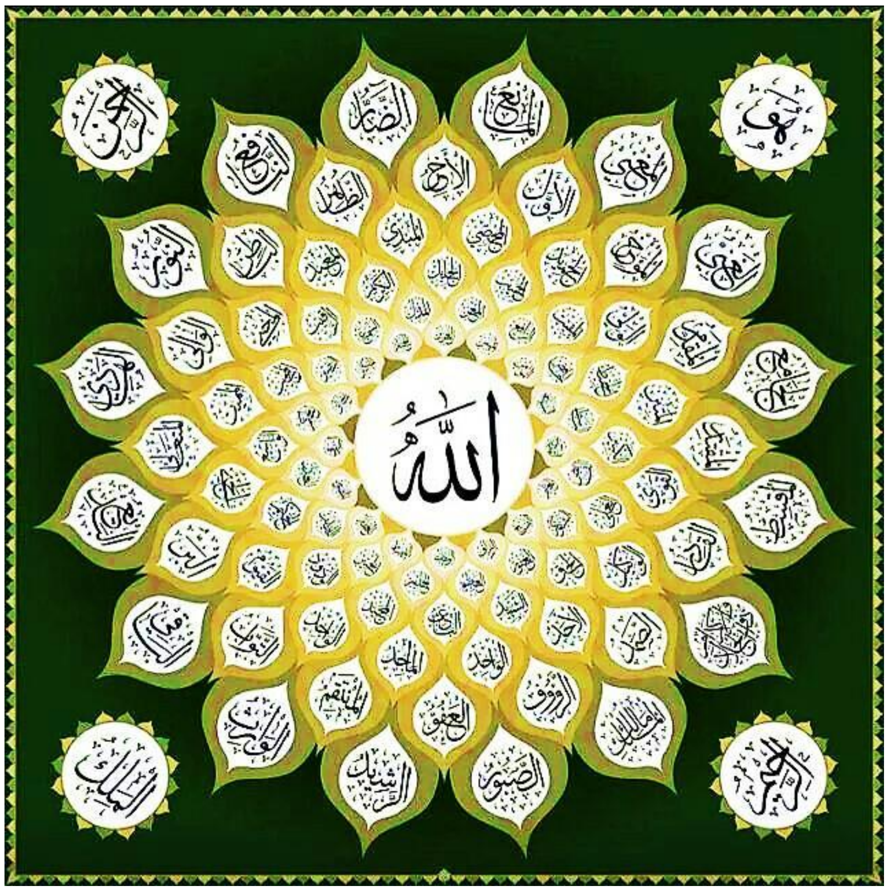
  「アッラーを崇拝せよ、彼以外何ものも崇拝していけない」（4:36）



- “ تَوْحِيدُ الأُلُوهِيَّة ”「神性の唯一性」は“تَوحيد العِبادة”「崇拝行為の唯一性」とも呼ばれる。アラビア語の“إِلَٰه”「神」とは“مَعْبُود（崇拝対象）”を意味し、「立法者」を意味する。崇拝行為の本質はかの御方の法を守ることである。すなわち、その命令だけに従い、その禁止を何よりも避けるという遵法行為の唯一性こそ崇拝行為の本質である。ゆえに、「崇拝行為の唯一性」とも呼ばれるのである。これは、ムスリムと非ムスリムを分かつメルクマールとなる。

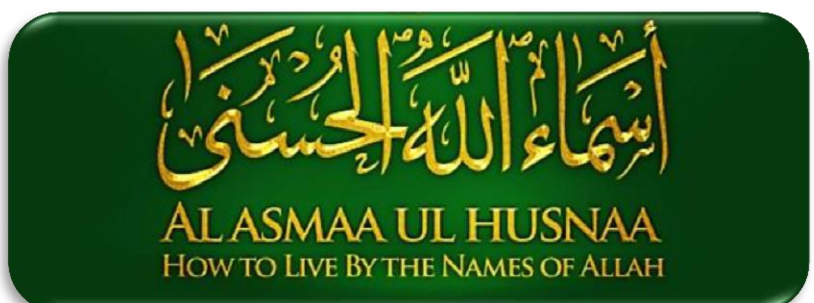


- “تَوْحِيدُ الأَسْمَاءِ وَالصِّفَاتِ”「美名と属性の唯一性」とは聖典クルアーンと預言者によって形容される美名と属性をもって形容することの固持と擬人神観への峻拒である。このタウヒードは以下の二つの原理に基づいている。



① 美名と属性の形容の固持

聖典クルアーンでアッラーがアッラーご自身を形容したか、預言者がアッラーを形容したとおりに、意味を変えることなく、読み替えることもなく、同時に被造物からは超越したものとして、美名と属性を文字通りに形容することに固持する道である。同時に、怒りというのは絶対神にそぐわない等の理由で、アッラーの怒りを懲罰に読み替えるような比喩的解釈を取らない道である。それは預言者と教友に倣う先人たちの在り方に沿って歩く道である。



② 擬人神観への峻拒

被造物の属性をアッラーに投影してすることを擬人神観という。例えば、アッラーの手、怒りを人間と同じものとして、想像することなどをいう。アッラーに似たものが地上にあるというのも然りである。そのような擬人神観への峻拒はクルアーンに典拠がある。

「かの御方の似たものは存在しない。かの御方は全てをお聞きになる御方で、全てを見通す御方」（42:11）



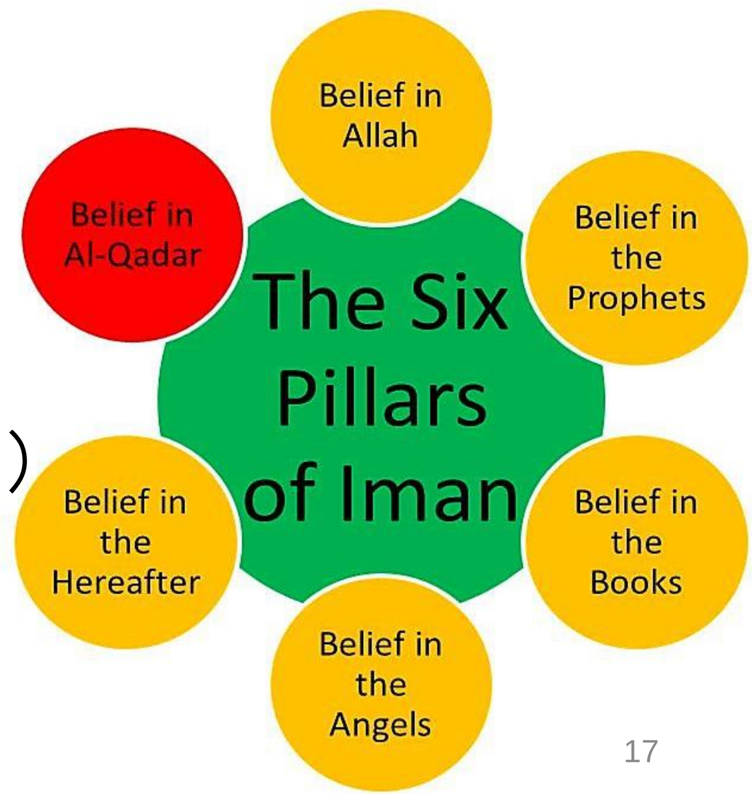
- アキーダとタウヒードの意味の違いとは何か？

“عقيدة”は“إيمان”「信仰」を意味し、言葉と行為の両方を含む。すなわち、心による内面の信仰と心の行為、舌による言葉、四肢による行為を含む。例えば、“حياء”が恥や慎みを意味し、それが心による行為であるように。



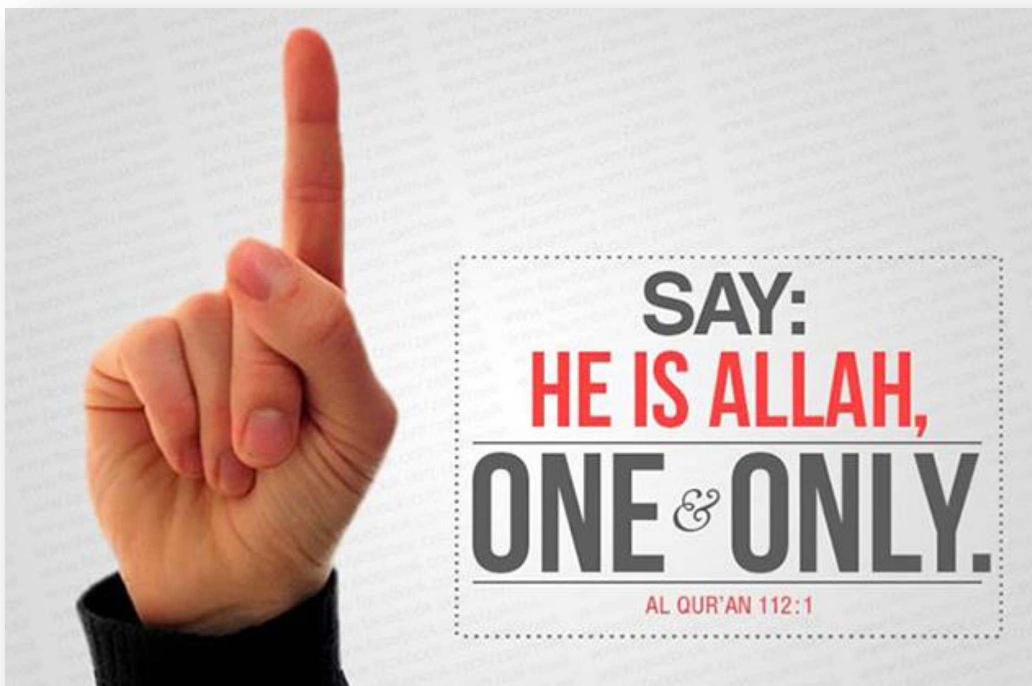
- イーマーン（信仰）は6つの柱を基礎に建っている。それらは全てのムスリムが全面的に受け入れて確信をもって信仰すべき、基本的な6つの事柄である。

① “الله”アッラー（超越せしかな至高なる御方）
② “الملائكة”諸天使
③ “الرسل”諸使徒
④ “الكتب”諸啓典
⑤ “اليوم الآخر(يوم القيامة, يوم الدين)”
最後の日（復活の日・審判の日）
⑥ “القضاء و القدر”予定と宿命



- タウヒードはアッラーの唯一性に係る信仰について言われる。

  アキーダはタウヒードに限定せずに信仰一般に言われ、信仰箇条のそれぞれの細目についても言われる。



Surat Al-Ikhlas (The Sincerity)
純正章

In the name of Allah, Most Gracious, Most Merciful

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

1. Say, "He is Allah, [who is] One,

言え，「かれはアッラー，唯一なる御方であられる。

2. Allah, the Eternal Refuge.

アッラーは，自存され，

3. He neither begets nor is born,

御産みなさらないし，御産れになられたのではない，

4. Nor is there to Him any equivalent."

かれに比べ得る，何ものもない。」

タウヒードとは何か



PART 2

パート2

タウヒードとは何か

- “تَوْحِيدٌ”は“أَحَدٌ”「１」という語根からきている。
- “تَوْحِيدٌ”とは原義（もともとの意味）は「一化すること」「唯一性」。
- イスラーム神学では、「他の者を並べることなく、信仰と行為において、アッラーだけを崇拝すること。」



«تَوْحِيدٌ»の分類

① تَوْحِيدُ الرُّبُوبِيَّةِ

主性の唯一性:創造主がアッラーだけであること。

② تَوْحِيدُ الأَسْمَاءِ وَالصِّفَاتِ

美名と属性の唯一性:クルアーンとハディースに描写されるアッラーの美名と属性がアッラー特有のものであること。

③ تَوْحِيدُ الأُلُوهِيَّةِ

神性の唯一性:崇拝対象がアッラーだけであること。

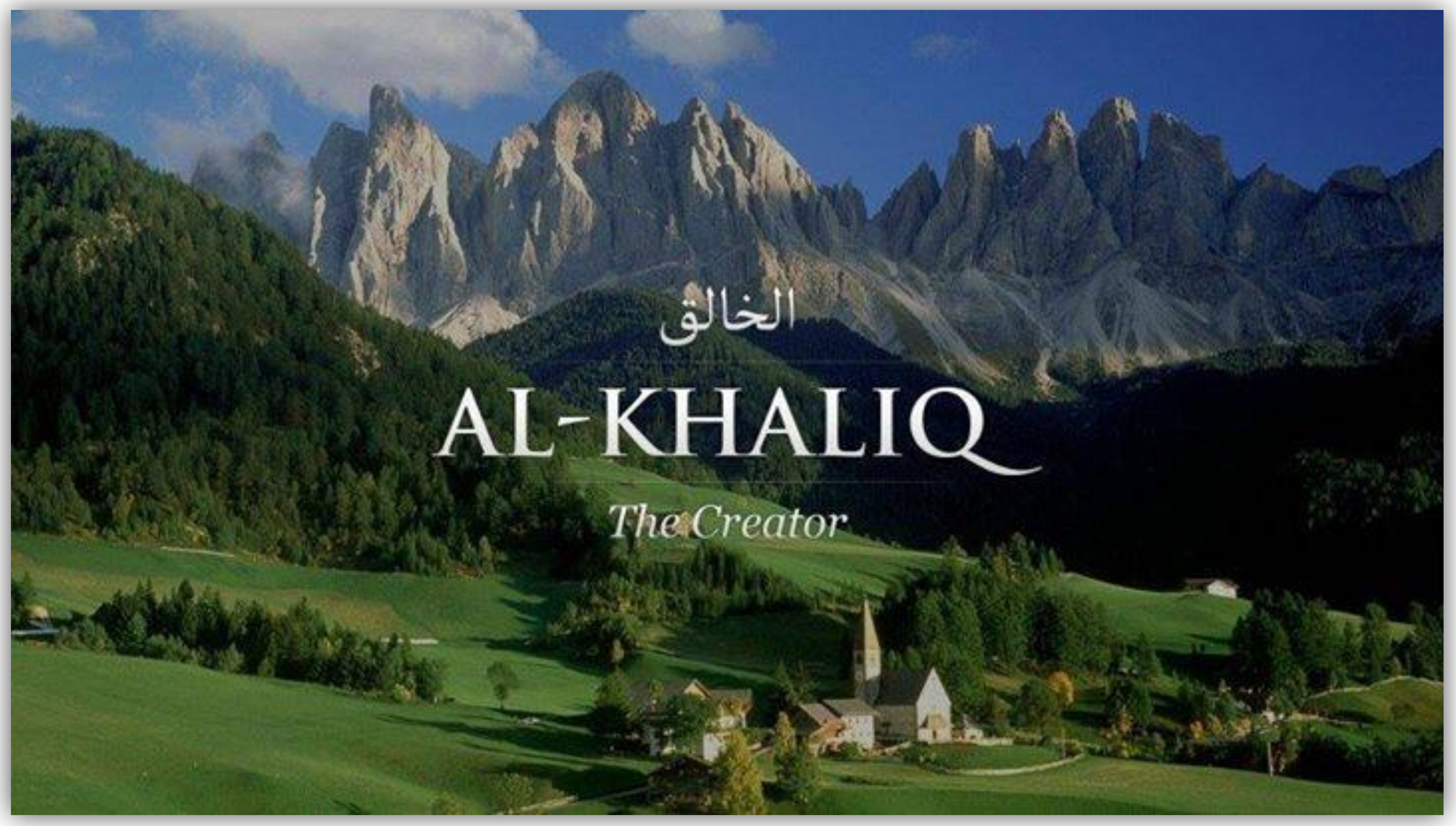




Ar-Ruboobiyyah
Lordship
Al-Uloohiyyah
Worship
Al-AsMaa Was-Siffaat
name and attributes
Tawheed

"تَوْحِيدُ الرُّبُوبِيَّةِ"

「主性の唯一性」



“تَوْحِيدُ الرُّبُوبِيَّةِ” 主性の唯一性

“الرُّبُوبِيَّةِ“ とは “رَبٌّ” 「主」「養育主」から由来する（＝意味が来ている）。
つまり、次のような「主性」のこと。

- アッラーは全てのもの（被造物：天使、ジン、人間、動物、大地、空、そしてすべての存在）を創造した創造主である。
- アッラーは被造物をすべて制御（コントロール）して、維持（メンテナンス）し、養育（守り育てること）している。
- アッラーは生と死を司る（自由自在に死なせ、生かす）
- アッラーは唯一の世界の主である。
- アッラーを比較するものはなく、同等のものもなく、対抗しうるものもない

至高なる（＝いと高き・とても高みにある）アッラーはクルアーンで次のようにおっしゃっている。

«ذَٰلِكُمُ اللَّهُ رَبُّكُمْ لَا إِلَٰهَ إِلَّا هُوَ خَالِقُ كُلِّ شَيْءٍ فَاعْبُدُوهُ وَهُوَ عَلَىٰ كُلِّ شَيْءٍ وَكِيلٌ»

「かの御方はアッラー、“رَبُّكُمْ”『あなた方の主』であられる。“إِلَٰهَ”『神（崇拝対象）』はいない、かの御方を除いては。かの御方は全ての被造物の“خَالِقُ”『創造主』でおわす。だから、かの御方をそのしもべとして崇拝しなさい。かの御方は全ての物事の上において“وَكِيلٌ”『守護者』であられる。」

（6:102）






至高なるアッラーはクルアーンにおいて次のようにおっしゃっている。

«قُلْ مَنْ يَرْزُقُكُمْ مِنَ السَّمَاءِ وَالأَرْضِ أَمْ مَنْ يَمْلِكُ السَّمْعَ وَالأَبْصَارَ وَمَنْ يُخْرِجُ الْحَيَّ مِنَ الْمَيِّتِ وَيُخْرِجُ الْمَيِّتَ مِنَ الْحَيِّ وَمَنْ يُدَبِّرُ الأَمْرَ فَسَيَقُولُونَ اللَّهُ فَقُلْ أَفَلا تَتَّقُونَ»

「問いなさい、『誰が天と地から“رِزْقٌ”「糧」を授けるのか？だれが聴覚と視覚を司っているのか？だれが死から生をお授けになり、生から死をお授けになるのか？だれがそれらの物事をなさっているというのか？』と。彼らはみな『アッラー』と答えることだろう。その時にさらに言いなさい、『あなた方はアッラーを畏れないのですか』と。」



幸運と不運について

- 幸運も不運もすべてアッラーの決定によるもので、幸運のおまじないやお守りでなんとかなるものでなく、星占いや手相などの占いで未来のことはわかりません。
- おまじないやお守りを信じて試すことは “توحيد” に反します。“شِرْكٌ”「偶像崇拝」という最大の罪になります。



クイズ

① あなたの“رَبٌّ”「主」は誰ですか？

② 全てを創造した創造主は誰ですか？

③ あなたに食べ物や住む家などすべてを授けてくれたのは誰ですか？

④ あなたが生きているのは誰のおかげですか？

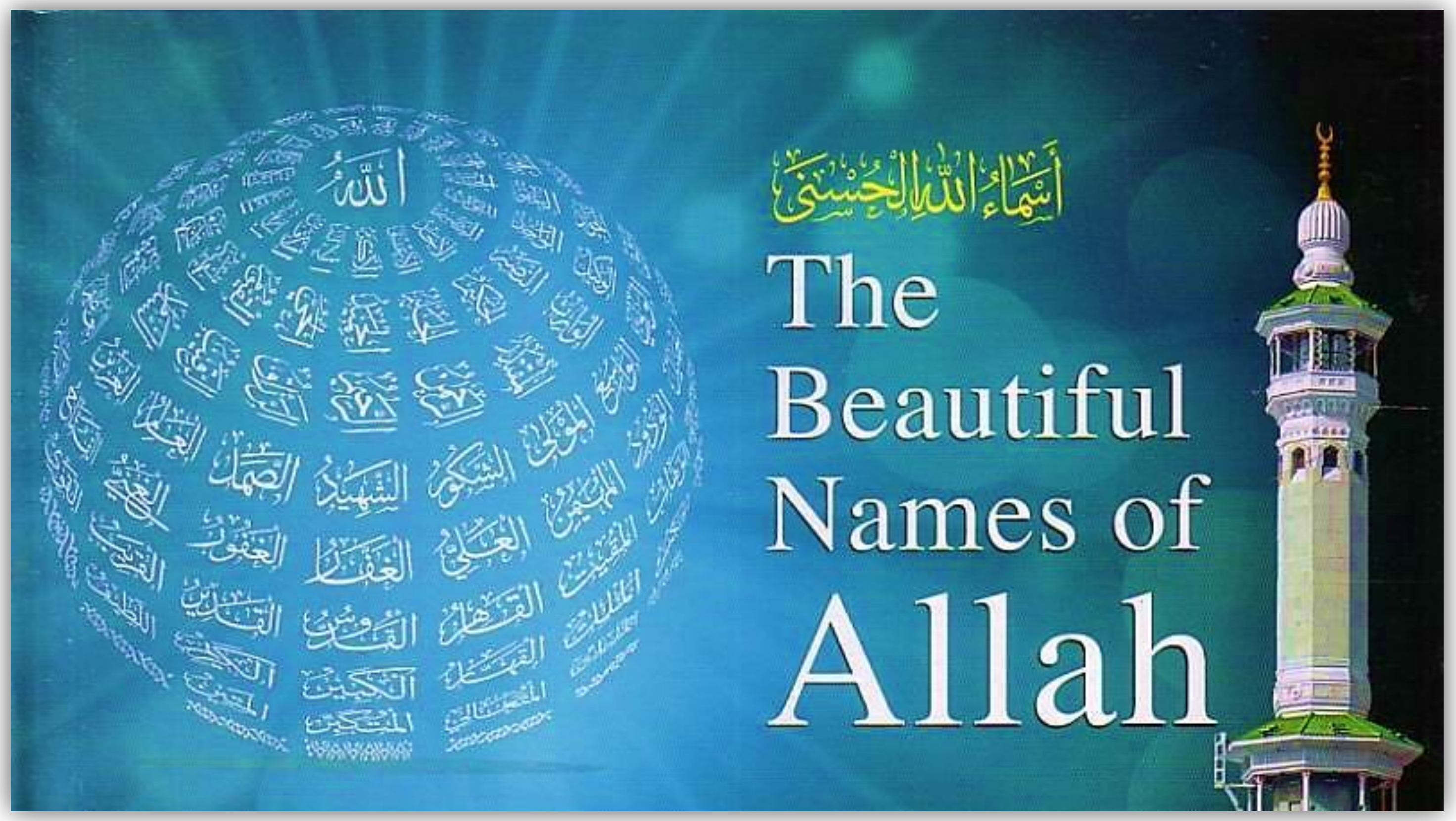
⑤ 私達の命を奪うことができるのは誰ですか？

このクイズにすべて正解したら、あなたは“تَوْحِيدُ الرُّبُوبِيَّةِ”「主性の唯一性」を理解しています。

結論

“تَوْحِيدُ الرُّبُوبِيَّةِ”「主性の唯一性」とは「アッラーが唯一の主（رب）であること」を意味する。言わば、アッラーは創造主かつ全ての養育主であり、全ての被造物はかの御方に属する（全てアッラーのコントロール下にあり、アッラーのものということ）。

"تَوْحِيدُ الأَسْمَاءِ وَالصِّفَاتِ"
「美名と属性の唯一性」



”تَوْحِيدُ الأَسْمَاءِ وَالصِّفَاتِ“
美名と属性の唯一性

“أَسْمَاءِ”は“اسم”「名前」の複数形。

“صِفَاتِ”は“صِفة”の複数形で、もともと形容する、描写するという意味からきていて、通常、「属性」と訳す。

“تَوْحِيدُ الأَسْمَاءِ وَالصِّفَاتِ”とは、クルアーンで描かれ、ハディースで預言者から説明されるアッラーの様態をそのまま素直に文字通り受け取り、比喩や解釈等、他の意味をあてはめないことである。





具体例

- アッラーが次のようにおっしゃっている。

  「アッラーは彼らにお怒りになった。彼らを呪い、そして彼に悪い結果を用意なさった。」

- アッラーのお怒りというのは、アッラーの属性。

- 怒りは欠点であるのでアッラーに似つかわしくないと考えて、アッラーの怒りと文字通り受け取らず、「アッラーの懲罰」という比喩として考えるのは不適切。

- アッラーの怒りは人間の怒りとは異なる「怒り」というふうに、クルアーンに描写されているとおりの属性として素直に受け取る。



アッラーがアッラーご自身を形容していることについて

- アッラーは次のようにおっしゃっている。

  <<لَيْسَ كَمِثْلِهِ شَيْءٌ وَهُوَ السَمِيعُ البَصِيرُ>>

  「かの御方に似たものなどなく、かの御方は“السَمِيعُ”『全てをお聞きになる方』であり、“البَصِير”『全てをお見通しになる方』である。」（42:11）

- アッラーはご覧になっているし、アッラーはお聞きになっているが、私たちが見るように見ているのでなく、私たちが聞くように聞いているのではない。
- アッラーの属性を私たちは文字通り受け取るが、人間の属性に類似させた意味（＝「擬人神観」）をあてはめてはいけない。
- アッラーがアッラーご自身を形容なさっている属性については、人間の属性として描写される「聞く」や「見る」というものから超越したものとして意味を取る必要がある。

“تَوْحِيدُ الأَسْمَاءِ وَالصِّفَاتِ”の位相

被造物にアッラーの属性が受肉する（宿る）かについて

- 人間にアッラーの属性が受肉する（宿る）ことはない。
- 例えば、シーア派の多数派は彼らのイマーム（指導者）にアッラーの属性を認める。彼は昔のことも知っており、未来や見えないことも知っており、運命を変え、原子レベルの創造もできるという絶対的能力を持つというのである。
- これは明らかな矛盾である。なぜならば、アッラーの属性を地上に持つものがいるということは、創造主であるアッラーとのライバルが地上にいるということであり、絶対者が少なくとも二者いることになる。

“تَوْحِيدُ الأَسْمَاءِ وَالصِّفَاتِ”の位相
ムスリムの名前について

- “عبد الرسول”「使徒のしもべ」や“عبد الحسين”「フサインのしもべ」という名前は、禁じられる。というのは、アッラーのみのしもべであるはずの人間が、被造物のしもべにであるべきでないからである。

- イスラーム以前のアラブでは、“عبد العُزَّى”「ウッザ（偶像神の一つ）のしもべ」、“عبد شمس”「太陽のしもべ」という名前の人がいた。イスラーム以後にはそのような名前はなくなった。イスラームは人々を偶像の支配から解放し、アッラーへ導いたからだ。

Abdullah

クイズ

① アッラーは被造物に似ていますか？

② アッラーの属性は被造物の属性と同じですか？

③ 人間は超越的な能力、未来が見えるとか、運命を変えるとか等の超越的能力をもつことはできますか？

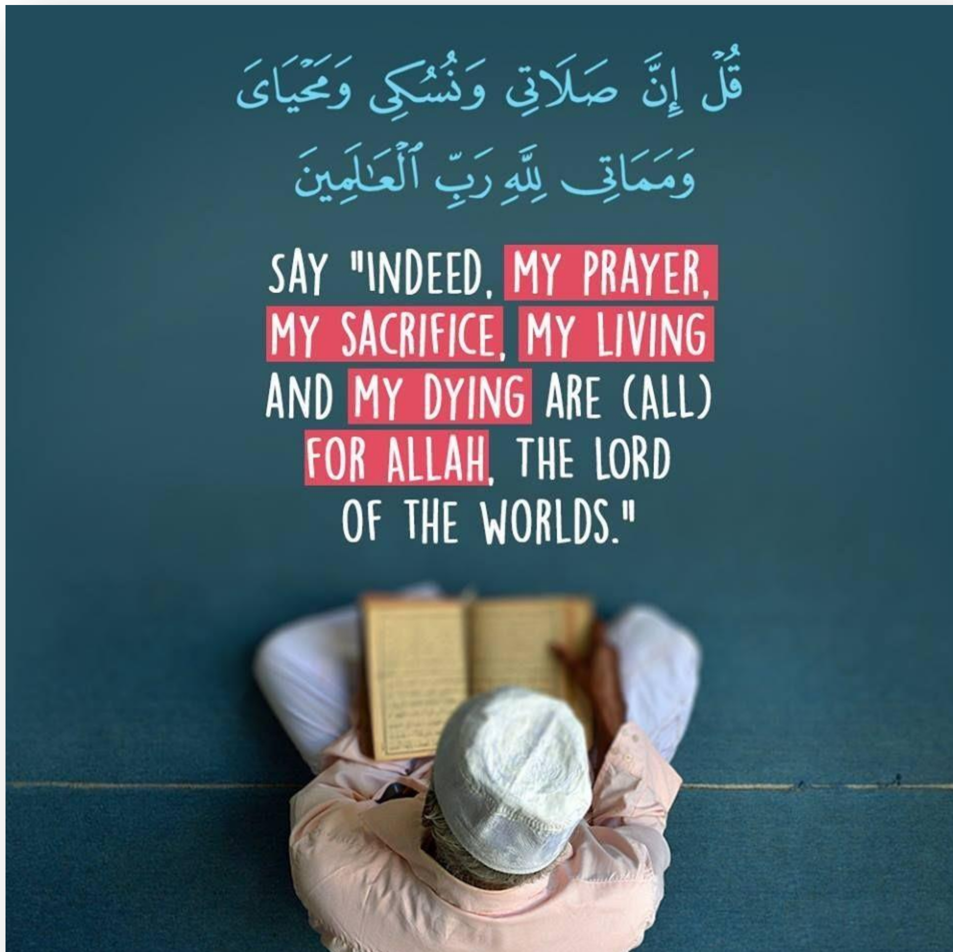
もしこのクイズに正解したら、あなたは“تَوْحِيدُ الأَسْمَاءِ وَالصِّفَاتِ”
「美名と属性の唯一性」を理解しています。

結論

“تَوْحِيدُ الأَسْمَاءِ وَالصِّفَاتِ”「美名と属性の唯一性」とは、“السَمِيعُ”『全てをお聞きになる方』や“البَصِير”『全てをお見通しになる方』、もしくは玉座の上にすべてを超越していらっしゃるという表現で示される美名と属性に関する唯一性のことである。擬人神観の否定とクルアーンと預言者によって形容されることの固持で示される。アッラーの属性は私たちの属性とは一切類似するものがないが、聖典クルアーンでご自身を形容されたとおり文字通りの属性である。全知全能の存在はアッラーを除いておらず、アッラーの属性は人間の描写を超越している。

”تَوْحِيدُ الأُلُوهِيَّة“

神性の唯一性



“تَوْحِيدُ الأُلُوهِيَّة”
神性の唯一性

“أُلُوهِيَّة”は、“إِله”「神＝崇拝対象」に由来する（＝意味が来ている）。

- つまり、「神性」＝「崇拝すべき対象」とは何かということを意味する。
- “تَوْحِيدُ الأُلُوهِيَّة”「神性の唯一性」とは、偶像崇拝せず、アッラーだけを崇拝し、かの御方からだけの命令と禁止に従うことを意味している。
- “تَوْحِيدُ الرُّبُوبِيَّةِ”「主性の唯一性」と“تَوْحِيدُ الأَسْمَاءِ وَالصِّفَاتِ”「美名と属性の唯一性」はこの“تَوْحِيدُ الأُلُوهِيَّة”「神性の唯一性」がないと何の意味もなさない。これはムスリムと非ムスリムの分水嶺（両者の分かれ道）となる。

誠実に正しくアッラーを信じる

- アッラーはこう仰っています。
  ある人々はアッラーを創造主そして扶養者として信じています。彼らはまたアッラーが生と死をもたらすという属性や特性を持っていると信じています。
  にも関わらずアッラーと一緒に他のものを崇拝した。

アッラーは次のようにおっしゃっている。

<<وَمَا يُؤْمِنُ أَكْثَرُهُمْ بِاللهِ إِلاَّ وَهُمْ مُشْرِكُونَ>> (12:106)

「彼らの多くは偶像崇拝しながらでしかアッラーを信じない。」

- 私達ムスリムは、“تَوْحِيدُ الرُّبُوبِيَّةِ”「主性の唯一性」と“تَوْحِيدُ الأَسْمَاءِ وَالصِّفَاتِ”「美名と属性の唯一性」を通して、“تَوْحِيدُ الأُلُوهِيَّة”「神性の唯一性」に導かれる。



アッラーのみを崇拝すること

- アッラーを崇拝するのは、かの御方お独りのみを崇拝すればよく、別の存在や仲介者を必要としない。
- アッラーは次のようにおっしゃっている。

<<وَمَا خَلَقْتُ الْجِنَّ وَالْإِنسَ إِلَّا لِيَعْبُدُونِ>>

「われはジンと人間を創造したのは、ただわれを崇拝するためである。」（51:56）

- このクルアーンの節は、他の存在や仲介者なしに、直接、アッラーを崇拝しなければならないことを示している。





“الفاتحة”「開端章」

<<إِيَّاكَ نَعْبُدُ وَإِيَّاكَ نَسْتَعِينُ>>

「あなたのみを崇拝し、あなたのみにお願いをする」
（1:5）

- 預言者（かの御方に平安と祝福あれ）がおっしゃるには、「もし礼拝であなたが祈るなら、アッラーに祈りなさい。そして、助けを求めるなら、アッラーのみに助けを求めなさい。」とのこと。
- このクルアーンの節とハディースから、どんな仲介者も必要としないことが明白である。



アッラー以外の者へのドゥアー

<< إِنَّ الذِينَ تَدْعُونَ مِنْ دُونِ اللهِ عِبَادٌ أَمْثَالُكُمْ >>

アッラーは次のようにおっしゃっている。

「誠にアッラーを差し置いてあなた方が祈願している相手は、あなた方と同じアッラーのしもべたちに過ぎない」（7:194）

- もし預言者や聖者、もしくはジンや天使にアッラーが助けてくれるように願掛けするなら、その人は“شِرْك”「偶像崇拝」を犯したことになる。

アッラーお独りで私達には十分ではないか？

- アッラーはおっしゃっている。

<<أَلَيْسَ اللهُ بِكَافٍ عَبْدَهُ>>

「しもべにとって、アッラーだけで十分ではないのか？」(39:36)

ذَٰلِكُمُ اللَّهُ رَبُّكُمْ لَهُ الْمُلْكُ وَالَّذِينَ تَدْعُونَ مِن دُونِهِ مَا يَمْلِكُونَ مِن قِطْمِيرٍ إِن
تَدْعُوهُمْ لَا يَسْمَعُوا دُعَاءَكُمْ وَلَوْ سَمِعُوا مَا اسْتَجَابُوا لَكُمْ وَيَوْمَ الْقِيَامَةِ يَكْفُرُونَ
بِشِرْكِكُمْ وَلَا يُنَبِّئُكَ مِثْلُ خَبِيرٍ.



アッラーの使徒はおっしゃった。
「アッラー以外の何かを頼みにし続けた者達の行先は地獄の業火である。」と。（アル＝ブハーリー）

アッラーは次のようにおっしゃっている。
「だから、アッラーと一緒に他の他の神々に祈願してはいけない。あなたは懲罰が下る者達の仲間になることだろう。」（26:103）



クイズ

① 命令に従い、崇拝する対象は誰ですか？

② 何故アッラーは私たちを創ったのですか？

③ 預言者にお願いすることができますか？

④ アッラーと私たちの間に仲介者は必要ですか？

⑤ アッラーを差し置いて誰かを崇拝してよいですか？

もし、このクイズに正しく答えられたら、あなたは
“تَوْحِيدُ الأُلُوهِيَّة”「神性の唯一性」を正しく理解しています。

結論

“تَوْحِيدُ الأُلُوهِيَّة”「神性の唯一性」とは、心の内面でも、振る舞いという外面においても、言葉においても、行為においても、どちらともアッラーのみを崇拝し、アッラーだけに祈願し、他の何ものも仲介者として立てず、アッラーだけを“إِلَهٌ”「神」＝崇拝対象とすること。

FUKUOKA MASJID